

資料 第3章 名勝の本質的価値

3-2 本質的価値を構成する要素

①三保松原の礎となる砂嘴

三保半島の内浜（西側）は砂嘴が3本に分岐していたが、明治時代から清水港の浚渫土^{しゅんせつど}の埋め立てが始まり、かつての分岐がわかりにくくなっている。外浜では今も砂の堆積が続いているが、その量は昭和30年代の安倍川河川敷からの砂の大量採取により激減し、昭和50年代後半から海岸侵食の被害を受けている。砂嘴を侵食から守るために、防潮堤や消波堤の建設や養浜等を行ってきた。

外浜では砂嘴の上の砂丘に形成された松原の伸びる方角に富士山があり、海・砂浜・松原・富士山の唯一無二の眺望を望める。

②松原

白波寄せる砂浜に、豊かな松原が潮風に揺れ、その向こうに富士山を仰ぐ。松原の群生は遠距離景を構成し、羽衣の松周辺や神の道では、樹齢200年以上の老齢大木が近距離景で荘厳な雰囲気醸し出し、見る人を圧倒する。このように名勝及び世界文化遺産富士山の構成資産の無くてはならない要素となっているほか、防潮、防風、防砂を担う防災林としても、周辺の人々の暮らしにとって無くてはならないものである。

秋里籬島の東海道名所図会（1797年）によると、徳川義直東行記録では三保松原について「松原の下層植生としてチガヤ、ススキが生い茂り、ショウロが多くハマウツボもある」と記載されていたようだが、近隣住民の生活や製塩のために松葉かきが行われ、マツの生育に適した状態が維持されていたと推測される。他の松林と同様の手法で営林していたと考えられ、材木の販売記録が一部残っている。燃料としての松葉利用は昭和30年代まで行われていたが、昭和40年代以降、生活様式の変化から近隣の人々が松葉を必要としなくなると、松葉が根元にたまり腐葉土となって栄養価が高まり、マツ以外の植物の生育を制御できなくなった。昭和46年頃からはマツ材線虫病被害が激しくなり、昭和47年（1972年）から薬剤散布等の対策事業を開始した。

三保松原の中心部、羽衣の松のある羽衣公園（三保市有林）エリアには防潮堤がなく、自然の砂丘上に松原が群生している。斜面での砂の流出と砂浜からの飛砂のバランスにより、土壌の状況が変わることに留意しつつ、保全においては斜面では下層植生の根を敢えて残すなどの配慮が必要である。

参考文献 三保地区まちづくり推進委員会（1987）三保地区の歴史 そこが知りたい

③砂浜

三保半島外海の海岸は径の大きな礫で構成され、そこから松原へ向かうにつれ、礫と砂が混合し、そして砂へと細くなる。（礫浜と表現されることもあるが、本計画では名勝地内の海浜部の浜地を砂浜と呼ぶ。）

砂浜のありようは一定ではなく、風や波でダイナミックな変化を繰り返しており、その環境に耐性のある海浜植物、海洋性昆虫が海浜特有の生態系を作っている。また、三保半島外浜は浅瀬が狭く急深になっていることもあり、近海で約450種もの魚類を見ることができる。潮の干満によって露出と水没を繰り返す潮間帯にも、ハゼなどの砂礫間隙性の魚類が多く生育しており、過去10年間で、三保で9種ものミミズハゼ属の新種が確認された。

このような海浜の生態系は、名勝三保松原の本質的価値として直接的には位置付けられていないが、特に砂を捕捉する役割や松原前面の緩衝地帯としての役割を担う海浜植物は、砂浜と松原の保全に必要不可欠であり、指標ともなるものである。近年は外来植物の侵入が目立ってきており、平成に入って新たに確認されたクズ、過去10年で新たに確認されたオオキンケイギク、過去5年で新たに確認されたナルトサワギク、ワルナスビなど、松原でも繁殖を急拡大しているものについて注視が必要である。外来種の侵入により、希少な在来種が絶滅の危機にあると考えられている一方で、ハマネナシカズラやハマボウなど、三保で絶滅したと考えられていた植物が再発見された事例もある。

侵食対策の工事の影響評価も含め、継続した調査・観察が必要である。

④富士山の眺望

三保松原を訪れ富士山の眺望を楽しんだ最も古い記録としては、永享^{えいきょう}4年（1432年）9月の今川範政と足利義教（富士御覧日記）や文明5年（1473年）10月の連歌師宗長と歌僧正広^{しょうこう}（宗長手記、正広日記）のものがあり、どちらも清見潟から三保へ船で渡る際に富士山の眺望を楽しんだようである。弘治3年（1557年）2月14日には山科言継^{とぎつぐ}が今川義元とともに、能「羽衣」で有名な羽衣の松を見物し、その後三保から清見寺へ舟で渡り、言葉に言い表せないほどの美しい景色を楽しんだという（言継卿記）。その他にも、里村紹巴^{じょうば}（富士見道記 1567年）、徳川頼宣^{よりのぶ}（駿国雑誌 1610年）、徳川家康（駿清遺事 1613年）らの、三保を訪れた記録が残る。

江戸時代までは、三保半島の全域に松が生育していたことが絵図等からわかるが、現在は外浜の付け根から先端まで、及び、内浜の先端から貝島までの海岸に沿って松が残っている。かつては日本平方面から見下ろす構図で非常に多くの芸術作品が作られたが、現在は外浜の松原と砂浜が富士山の方角に向かって伸びる風景が、三保松原を代表するものとなっている。半島内部の開発により、自然景として三保松原と富士山を描こうとすると人工物が構図に入り込んでしまうようになったため、富士山の左側に松原を描く構図が主流になったという見方もある。古くからの視点場の中には、すでに三保松原をほとんど望むことができなくなっている場所もある。

なお、秋里離島の東海道名所図会（寛政9年、1797）の松原と駿河湾の大海原越しに見る伊豆半島の風景が格調高雅に記した文章は、大正から昭和にかけての名所解説や観光案内文にも使用され、この風景も広く愛されていたことがわかる。

視点場はこれからも変化を続けていくと予測され、記録の継続と定期的な見直しが必要である。ここでは、名勝地外からの三保松原の眺望も掲載する。

- 参考文献 大竹実美、山本清龍、下村彰男（2017）絵画にみる三保松原と富士山との関係の変遷と現代の風景認識に関する研究（ランドスケープ研究 80 P569）
静岡県県政資料（1921）静岡県史跡名勝誌
清水市保勝会（1935）遊覧の清水

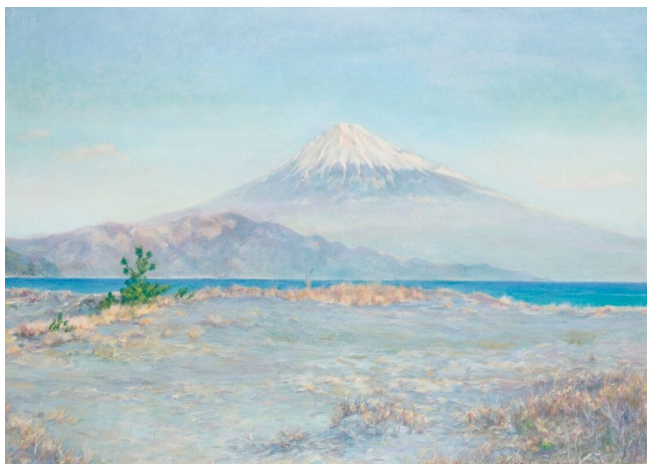


視点場位置図

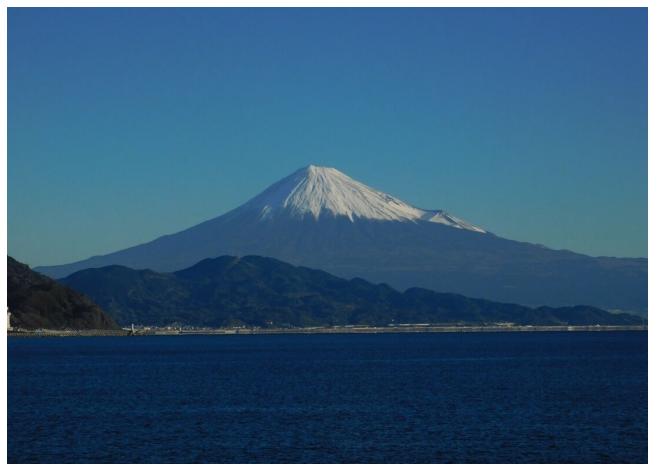
【名勝地区内】

1. 真崎

三保半島の先端の真崎は、三保松原の中で最も富士山を大きく見ることができる。



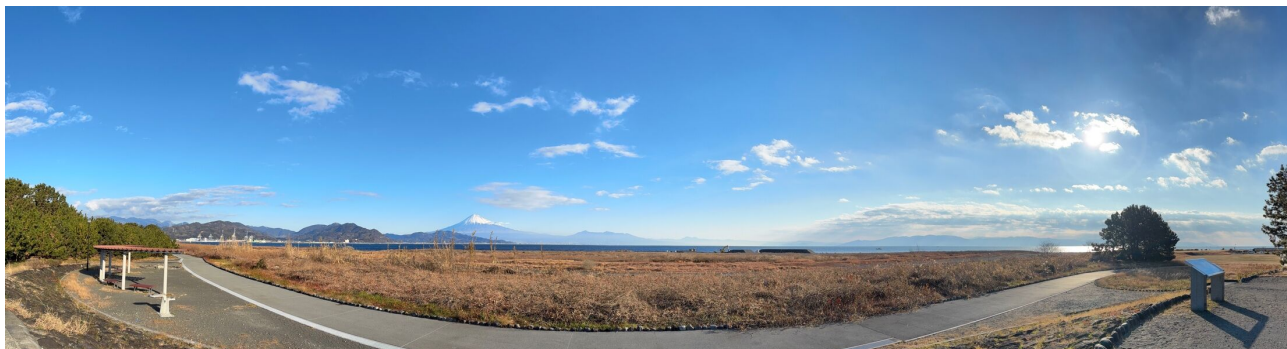
和田英作「真崎からの富士」(1955) 静岡市所蔵



(2021.12.19)

2. 吹合岬

北東に突き出た岬で、興津の山から^{ほがちさき}波勝崎まで開けた眺望を楽しむことができる。



(2025.1.22)

3. 清水灯台

令和4年(2022年)に国の重要文化財に指定された灯台と富士山の眺望を楽しむことができる。



「清水燈台出鼻の海岸」 静岡県立中央図書館蔵



(2022.5.6)

(吹合岬は、明治時代は出鼻、大正から昭和の初めにかけては大鼻と呼ばれていた。)

4. 鎌ヶ崎

富士山に向かって伸びる海岸線と松原、興津の山の眺望を楽しむことができる。



シズラ 清水の魅力 15 天女シズラ (2023)



(2022.11.25)

作品例：和田英作「朝陽富士」(1917)「松原富士」(1954)
岡田三郎助「富士山(三保にて)」(1920)
岡田紅陽「三保の浜」(1950)

5. 羽衣の松・神の道周辺

樹齢 200 年以上の老齢大木が近距離景で荘厳な雰囲気醸し出し、見る人を圧倒する。



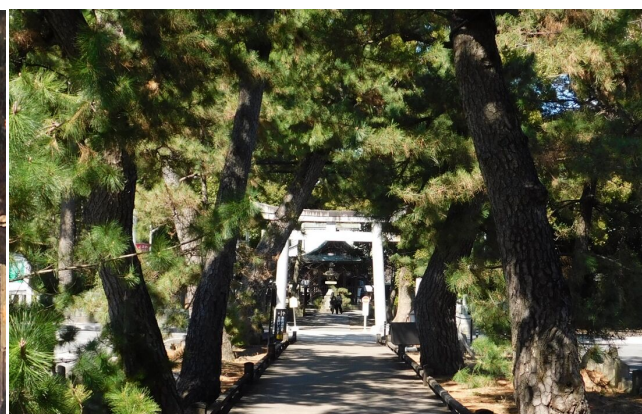
「羽衣の松」静岡県立中央図書館蔵



(2025.3.17)



「松のトンネルより御穂神社を望む」静岡県立中央図書館蔵

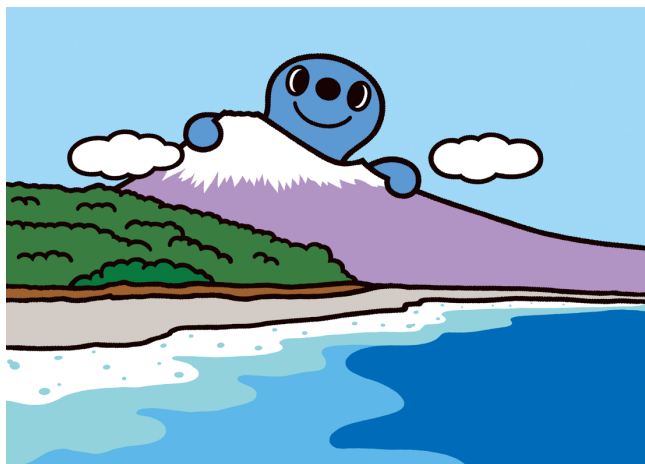


(2025.3.17)

作品例：春扇「羽衣」(1804-1818 頃)
歌川広重「東海道五十三對 江尻」(1845)
河鍋曉斎「東海道名所之内 三保松原」(1863)

6. 八木地先（海越しの富士）

現在の三保松原を代表する風景。1990年代以降の砂浜の減少に伴い消波ブロックを設置した後、海、砂浜、松原、富士山の構図を望むことができるようになった。



シズラ 清水の魅力 11 三保松原（青）

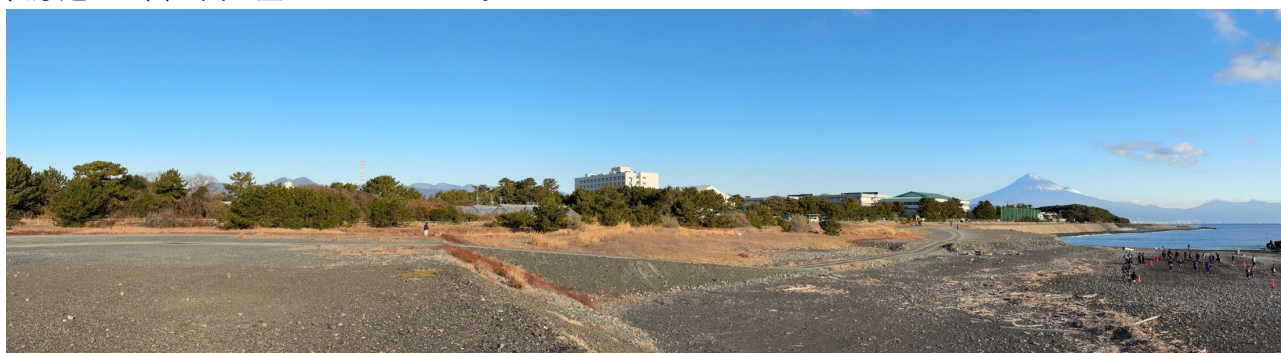


2019.12.31 撮影

作品例：さくらももこ「静岡市はいいねえ。」（2007）「まるちゃんの静岡音頭」（2013）
「ちびまる子ちゃん 18 巻（表紙）」（2019）
松瀬千秋「3776 Matsubara と」（2014）「悠久の海辺」（2017）

7. 折戸

折戸の砂浜沿いの松原は林帯幅が狭いが、富士山方面には三保市有林（羽衣公園）があり、豊かな松原越しの富士山を望むことができる。



2025.1.5 撮影

8. 砂浜から望む伊豆半島

松原内あるいは砂浜から駿河湾越しに望む伊豆半島も、人工物の少ない海岸風景として貴重なものである。



2025.3.7 撮影

【名勝地区外】

9. 薩埵峠

峠から、広々とした駿河湾と松の生い茂る三保半島を見下ろすことができる。



(2025.3.10)

作品例：歌川貞秀「東海道薩埵峠之景」(1862)

歌川貞秀「東海道沖津驛勝景」(1863)

10. 清見寺

かつては清見潟越しに松原を望むことができた。開発が進み、現在は建造物の隙間から松原が少し見えるのみである。



「公園山ヨリ三保松原ヲ臨ム」 静岡県立中央図書館蔵



(2017.10.8 清見寺より)

作品例：歌川芳艶「東海道名所之内 清見寺」(1863)

11. 清水港

清水港の客船が停泊する岸壁や商業施設からも、港越しに三保松原を望むことができる。また、三保へ渡る水上バスからは、三保松原越しの富士山を望むことができる。



「三保松原ノ風光」 静岡県立中央図書館蔵



(2015.2.27 水上バスより)

作品例：与謝蕪村「富嶽列松図」(1778-1783 頃)

12. 日本平（鉄舟寺、龍華寺、久能山）

日本平夢テラス、展望回廊、吟望台、寺院等から富士山と清見寺方面と三保松原を見ることができる。ただし、三保松原前面に建造物が多いので、かつての風景とは差がある。



五姓田義松「富士」（1905）静岡県立美術館蔵

作品例

伝雪舟「富士三保清見寺図」（16世紀）

中安真康「富嶽図」（室町中期）

伝能阿弥「三保松原図」（15～16世紀）

狩野探幽「富士山図」（1667）

狩野常信「秋景富士三保清見寺図」（1699）

狩野山雪「富士三保松原図屏風」（17世紀）

狩野洞春「富士山図」（17～18世紀）

司馬江漢「駿河湾富士遠望図」（1799）

狩野伊川院栄信「富士三保清見寺図」（1810頃）

横山華山「富士三保清見寺図」（1819）

原在中「富士三保松原図」（1822）

狩野晴川院養信「富士三保松原図襖」（1820頃）

歌川広重「東海道五拾三次之内 江尻 三保遠望」（1833）

二代歌川豊国「名勝八景 三保落雁 駿州清見寺吉原當遠景」（1834）

歌川広重「六十余州名所図会 駿河 三保のまつ原」（1853）

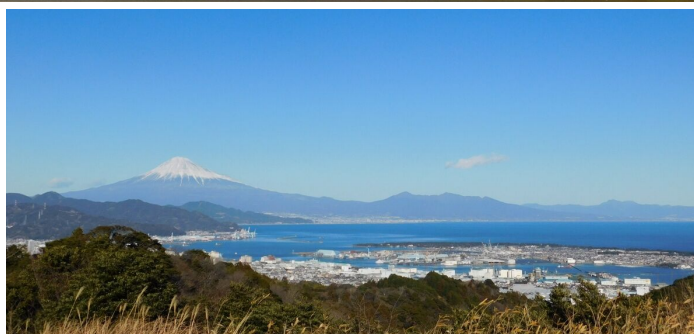
歌川広重「五十三次名所圖會 十九 江尻 田子の浦 三保の松原」（1855）

歌川広重「富士三十六景 駿河三保之松原」（1858）

狩野董川中信「富士飛鶴図」（1859）

歌川国綱「東海道名所之内 久能山」（1863）

歌川芳晴・歌川重清「書畫五拾三驛 駿河 江尻 三保ノ松 羽衣ノ古事」（1872）



(2022.1.14)

月岡芳年「月百姿 きよみかた〜」（1886）

狩野永岳「富士三保松原図」（19世紀）

平井顯斎「望嶽図」（19世紀）

橋本雅邦「三保松原図」（1902）

下村観山「三保富士」（1919）

13. 駿河湾

駿河湾フェリーやクルーズ船から三保松原を望むことができる。



(2024.8.20 実習船「南十字」より撮影 東海大学海洋学部海洋理工学科)

作品例：葛飾北斎「富嶽三十六景 東海道江尻田子の浦略圖」（1830-1832）

⑤羽衣伝説につながる御穂神社、神の道、羽衣の松

(i) 羽衣の松と神社

・羽衣の松

天人が羽衣を掛けた伝説の松で、現在 3 代目。初代の松は羽車磯田社とともに波打ち際に近い場所にあり、江戸時代中期に海中に沈んだとされる。羽車神社境内の 2 代目の羽衣の松は、樹勢の衰退により平成 22 年（2010 年）に代替わりし、平成 25 年（2013 年）に伐採、地上約 3m の幹が残る。

・御穂神社

元慶 2 年（878 年）に従五位を授けられ、延長 5 年（927 年）成立の『延喜式』神名帳に記載される式内社で、駿河国において三宮の地位にあったと推測される。大己貴命（大国主、御穂津彦）と三穂津姫命（御穂津姫）の 2 柱を祭神とする。摂末社として、境内 9 社と羽衣の松横の羽車神社がある。現在の本殿は平成 24 年（2012 年）の再建で、市の有形文化財に指定されている。国指定重要文化財の太刀、市指定重要文化財の御簾を所有する他、羽衣伝説の「羽衣の裂」が古くから観光客にも愛されている。11 月 1 日に例祭、2 月 14 日夜に筒粥祭を行う。筒粥神事の際、海岸で迎えた神の宿った神籬を持って約 500m の松並木を通り境内に至ることから、この道を「神の道」と呼ぶ。境内は江戸時代より桜の名所として知られる。

建久年間（1190～1199 年）源頼朝による神馬の奉納、応安 3 年（1370 年）今川範国によるマツの伐採の禁止、天文 24 年（1555 年）今川義元による参拝、天正 5 年頃（1577 年頃）武田氏から太田神主への松原の安堵、天正 18 年（1590 年）豊臣秀吉による参詣、慶長 7 年（1602 年）徳川家康による朱印状の発行（三保・折戸・別符 3 力村の 106 石（約 10.6ha））など、権力者たちに崇敬された歴史を持つ。このことが、大部分が神社の社領であった三保松原の維持に大きく寄与したと考えられる。

・羽車神社

御穂神社の離宮で、「羽車」の名は三保の浦に降臨した神の乗り物に由来する。現在の社は昭和 31 年（1956 年）の再建。1 月 1 日に歳旦祭、10 月初旬に例祭を行う。

・瀬織戸神社

1250 年前に創建されたという古い伝承を持ち、折戸地区の中心的存在となっている。祭神は瀬織戸姫で、弁天さんとも呼ばれる。

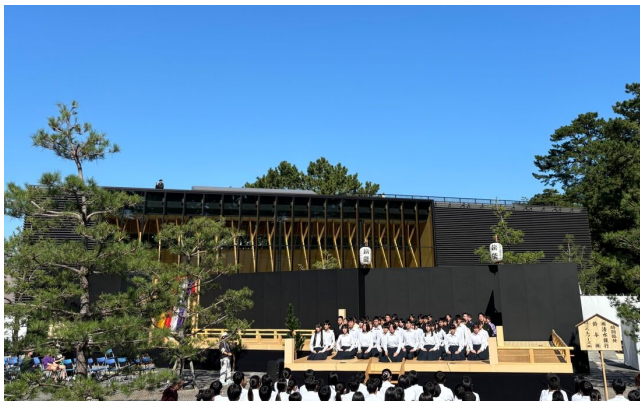
(ii) 能「羽衣」と舞楽「羽衣の舞」

・能「羽衣」

室町時代の能楽作品で、羽衣を見つけた地元の漁師白龍がそれを天女に返すと、天女がお礼として東遊の駿河舞を舞い、宝を降らせながら月に帰っていく。春霞の砂浜、夕陽に映える富士山、十五夜の月などの風景描写が美しい。昭和 27 年（1952 年）の羽衣の碑除幕式の際に、羽衣の松前で上演され、その後昭和 58 年（1983 年）から平成 30 年（2018 年）まで毎年 10 月の三保羽衣薪能の中で上演された。令和 3 年（2021 年）以降はみほしるべ前広場に場所を移して上演されている。

・舞楽「羽衣の舞」

御穂神社に古くから伝わっていた羽衣の舞は、昭和 15 年（1940 年）に作られた浦安の舞に取って代われ途絶えたが、昭和 55 年（1980 年）に東儀謙太郎らの指導と宮内庁楽部の協力により復活し、現在も地域の保存会が伝承している。



羽衣（謡 清水第五中学校）

参考文献 静岡県（1992）静岡県史資料編 6 中世 2

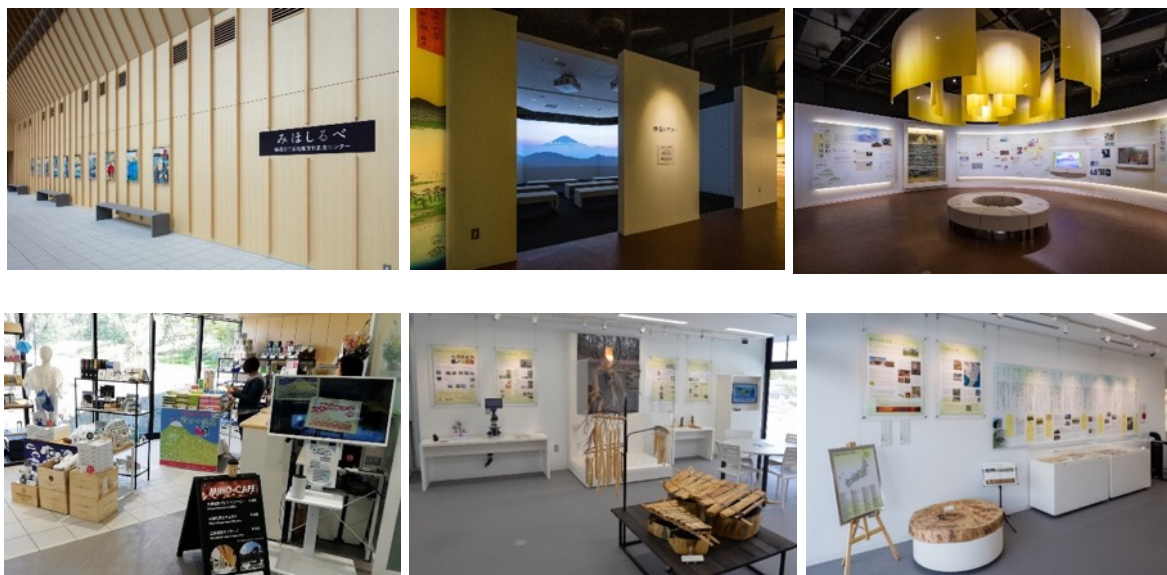


羽衣の舞

3-3 本質的価値の維持・継承に関わる要素

⑥ガイダンス施設（静岡市三保松原文化創造センター「みほしるべ」）

静岡市が文化庁の補助を受けて建設した、鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 2 階建（高さ 8 m）延床面積 1,143.73 m² の施設。1 階には、三保松原の文化的背景を紹介する映像シアター、展示室のほか、観光案内ブース、ミュージアムショップがある。2 階には、松原の科学的側面を紹介する展示のほか、会議室、市民活動スペースがある。愛称の「みほしるべ」は、公募で寄せられた 907 件の中から決定した。三保を知る、道標の意味がある。



みほしるべのロゴマークは、八木地先（海越しの富士）からの砂浜、海、松原、富士山の眺望をデザインしたもの。

⑦松原顕彰に係る石碑

・羽衣天女詩碑

享和 3 年（1801 年）に、中島漁が撰文し当時駿府の町奉行だった牧野成傑（通称：^{しげなげ} 穀負）が建立したとされる碑を、明治 44 年（1911 年）に当時の御穂神社の神職だった長澤雄植（^{おんどくさく} かんざく）が地域の有志数名と共に再建したもの。原碑の羽衣伝説に関する文章に加え、再建記も陰刻されている。

・日本新三景の碑

雑誌「婦人世界」の読者投票により、三保松原が日本新三景に選ばれたことを記念し、大正 7 年（1918 年）に建設されたもの。揮毫は東郷平八郎による。この投票は創刊 10 周年を記念して実業之日本社が主催し、大正 4 年（1915 年）10 月から翌年 2 月にかけて行われ、三保松原は 136,931 票を獲得し首位で当選した。2 位の大沼公園（北海道）、3 位の耶馬溪（^{やまげい} やまげい 大分県）にも、同じデザインの石碑が建設された。

・羽衣の碑

市民らが立ち上げた日仏羽衣の会協力会が、清水市の 30 万円と寄付金を受けて建立したもの。当時三保に住み創作活動を行っていた洋画家の和田英作が、清水市長の依頼を受け彫刻家の朝倉文夫に打診し、朝倉文夫の構想、地元清水の書家の高塚竹堂の揮毫、朝倉文夫の次女で彫刻家の朝倉響子のレリーフによる「羽衣の碑」が制作された。昭和 27 年（1952 年）11 月 1 日に除幕式が行われ、それに合わせてシテ梅若万三郎による能「羽衣」が上演された。碑にはエレーヌの夫マルセルの詩が刻まれているが、その日本語訳の石碑が、昭和 59 年（1984 年）の第 1 回羽衣まつりを記念して設置された。

・その他の主な碑

名前	設置年	所在地	設置者
羽衣伝説の碑	昭和 54 年 1979 年	三保 1287	清水羽衣ライオンズクラブ・台北市双園国際獅子会
羽衣歌碑	平成 3 年 1991 年	羽車神社	清水羽衣ライオンズクラブ・台北市双園国際獅子会・上越ライオンズクラブ
社殿再建の碑	昭和 31 年 1956 年		羽車神社再建委員会
羽衣の松石碑	平成 22 年 2010 年	三保 1527	中日本高速道路株式会社（寄贈）
世界遺産登録記念銘	平成 27 年 2015 年	羽衣公園	市文化財課
名勝鎌ヶ崎の碑	不詳		清水市
天女の池の由緒の碑	昭和 61 年 1986 年	三保 1337	羽衣メルヘンの会
山梨勝之進詩碑	昭和 62 年 1987 年	羽車神社	羽衣メルヘンの会
華表公園設置記念之碑	明治 43 年 1910 年	三保 1065-2	三保出身の在米移民 354 名と発起人 35 名による
田中孫七翁表功碑	大正 3 年 1914 年	御穂神社	田中智學、三保村長など 65 名による
忠魂碑	大正 11 年 1922 年		帝國在郷軍人会三保村分會
日華事変大東亜戦争戦没者芳名碑	昭和 40 年 1965 年		有志
南陵の碑	昭和 50 年 1975 年		静岡県立清水南高等学校同窓会
大谷崩 300 年事業記念碑	平成 18 年 2007 年	三保 2110-9 地先 清水三保 海浜公園	静岡市

・祠、墓、石仏等

名前	設置年	所在地	土地状況
恵比寿神社、鳥居	不詳	三保 1527	市有林、羽衣公園
稲荷神社、鳥居	不詳	三保 2476-1	民有地
石製祠	不詳	折戸三丁目 848-4	市道緑地帯
石製祠	不詳	三保 1262-1	市有林
石製祠	不詳	三保 1906-1 地先	堤
石製祠	不詳	三保 2222 付近	東海大学
地蔵	不詳	三保 1262-1	市有林、羽衣公園
童女墓	文化 3 年 1806 年	三保 1262-1	市有林、羽衣公園
長澤墓	昭和 15 年 1940 年	三保 1972	官有地

⑧海岸保全のための新堤

平成 25 年（2013 年）4 月に、富士山の世界文化遺産登録についての勧告で「消波堤が景観上望ましくない」とのイコモス（国際記念物会議）からの指摘があった。それを受けて、世界遺産登録後の 8 月から平成 27 年（2015 年）2 月にかけて三保松原白砂青松保全技術会議を開催し、景観と防護を両立する工法を検討した。その成果を継承し、今後実施する施設の設計や施工、モニタリングなどについて有識者が的確なフォローアップを実施する「三保松原景観改善技術フォローアップ会議」が平成 27 年（2015 年）年 4 月に設置され、現在まで定期的に開催されている。

平成 31 年（2019 年）に 1 号新堤が完成し、1 号消波堤の撤去を進めている。2 号新堤についても建設を進めている。

侵食対策事業について（静岡県清水海岸ポータル）

<https://shimizukaigan.doboku.pref.shizuoka.jp/shiru/jigyougaiyou/>



景観改善事業開始前



新堤への置き換え後

⑨清水三保海浜公園

防潮堤の整備に伴い、静岡県環境影響調査及び静岡県環境審議会を経て整備した、自然景観や松原を生かした公園である。整備計画では「市民はもとより多くの来訪者が再度訪れたいような名勝地の新たな自然的レクリエーションの創出」を目標とし、北側に三保松原本来の姿をイメージした「松原の丘」、南側は灯台の明光障害エリアで高木の植栽等ができないため「広場」を配した。また、この公園の独自性を出すものとしては、海浜植物の植栽や車椅子利用者が容易に富士山と海の眺望を楽しめる築山がある。平成 29 年（2017 年）から段階的に共用開始した。



⑩三保松原圃場

羽衣海岸線の道路整備に伴い、平成 29 年（2017 年）から民有地の公有地化を進め、圃場を整備し、令和 4 年（2022 年）に運用開始した。松原に植栽する苗を育てるための母樹園と苗畑がある。国立研究開発法人 森林研究・開発機構 森林総合研究所林木育種センターの林木遺伝子銀行 110 番事業により、2 代目羽衣の松及び 3 代目羽衣の松から採穂して作ったクローン苗等を、母樹としている。

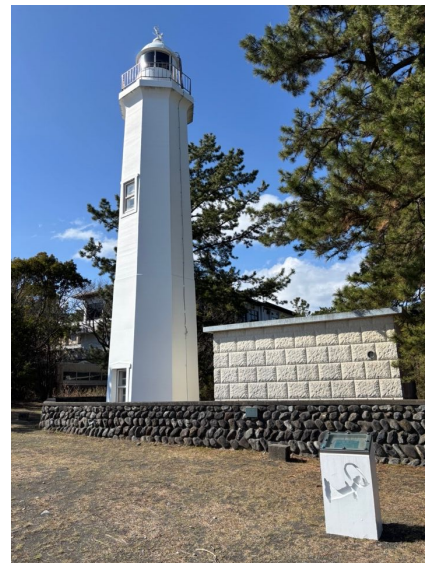
3-4 名勝地内の本質的価値以外の要素

各要素の補足説明を下記に示す。

⑪清水灯台

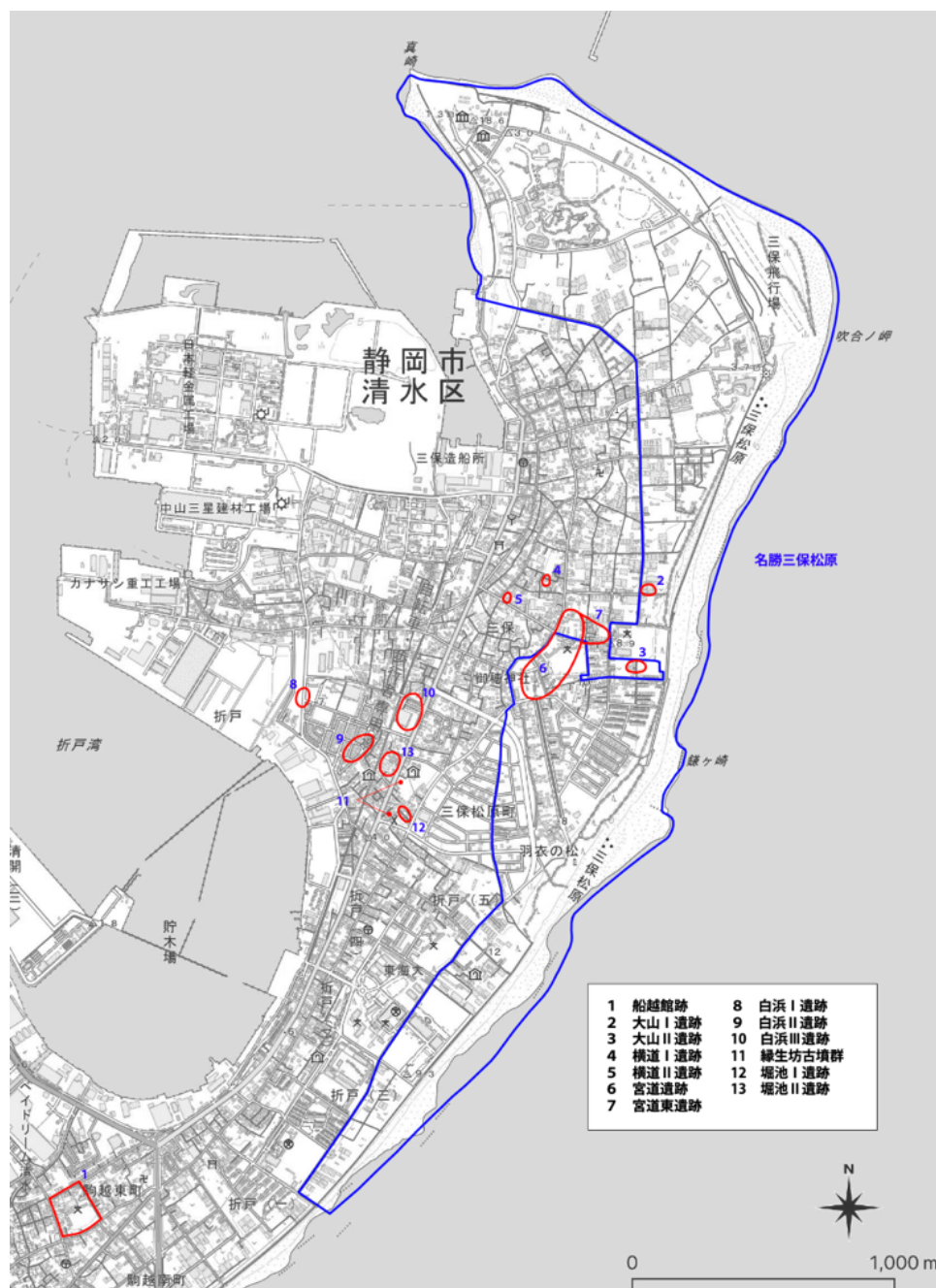
清水港整備の一環で明治 45 年（1912 年）に設置された。平成 6 年（1994 年）に無人化され、最後の灯台守石井源助の娘がデザインした天女の風見鶏が設置された。

平成 21 年（2009 年）に近代化産業遺産、平成 22 年（2010 年）に土木学会推奨遺産^{ていしんしょう}、平成 25 年（2013 年）に静岡市地域景観資源に指定された。通信省航路標識管理所の設計施工による、日本初の鉄筋コンクリート造灯台であり、現存最古級の鉄筋コンクリート造建造物としても貴重である。また、その八角形の平面形状は、大正期以降の鉄筋コンクリート造灯台の一つの規範となり、歴史的に重要であるとして、令和 4 年（2022 年）9 月 20 日に国の重要文化財に指定された。重要文化財指定プレートの展示台には、風見鶏の天女がデザインされている。



⑫宮道遺跡他

三保半島の最古の遺跡は古墳時代前期の白浜遺跡とされ、出土品から漁業を中心とした集落があったと考えられる。



⑬掩体壕

三保には、第二次世界大戦中の昭和 19 年（1944 年）に置かれた清水海軍航空隊に関連する施設が一部残り、関係者により記念碑も建立されている。

・掩体壕 7 箇所（三保 2475-1, 2651-7, 2903-7, 2903-9 地先, 2939-2, 3117-3 付近）

本土決戦に備えた小型特攻ボート「震洋」の基地、格納庫、待機壕として作られたもの。

- ・高射砲台 1 箇所（三保 2388-6 地先）
- ・清水海軍航空隊の裏門門柱（三保 2110-9）

戦争で国に接收される前に住宅として使われていたときのものとされる石垣の上に建つ。

- ・炊事場（三保 1935）
約 30 棟あった航空隊の建造物のうち、1 棟が残る。
- ・甲飛予科練之像記念碑（三保 2110-9 地先）

昭和 63 年（1988 年）に、清水海軍航空隊所属第 14, 15, 16 期海軍甲種飛行予科練習生一同、清水海軍航空隊清空会関係者一同が、後世に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えるために建立した。平成 21 年（2009 年）に東海幼稚園敷地から浜地へ移設。



⑭海水浴場

三保海水浴場は大正 10 年（1921 年）頃に伯梁、大正の 2 亭で始められ、昭和 5 年（1930 年）のプール落成で本格的な海水浴場となり、様々な娯楽施設が併設され、日本のヴェネチアと謳われた。かつては真崎と内浜の 2 箇所に海水浴場を開設していたが、現在は内浜のみで開設している。また、内浜では年間通じてウインドサーフィンなどを楽しむ人がいる。

昭和 45 年（1970 年）以降、東海大学社会教育センターの博物館やスポーツ施設の整備により多くの観光客が訪れ、マリンスポーツや漁業体験を含む教育旅行も多く受け入れてきた。令和 2 年（2020 年）に東海大学三保研修館が宿泊受付を停止したが、令和 3 年（2021 年）から、三保棧橋前の宿泊施設で教育旅行を受け入れるようになり、カヌーやサップ等のマリンスポーツを多くの子どもたちが体験している。



⑮飛行場

長さ 500 m、幅 20 m の滑走路のほか、誘導路と駐機場を擁し、施設の面積は約 4 ha である。大正 12 年（1923 年）の開設以来、富士山の眺望や周辺環境に配慮しながら、継続して利用されてきた。最も利用の多かった昭和 50 年代には、水難事故防止パトロールや赤十字飛行隊の飛行訓練で年間 1,200 回程度の使用があった。

⑯観光バス駐車場

平成 25 年（2013 年）6 月の世界遺産登録前後から急増した羽衣の松を訪れる観光バスの神の道の通行が、老齡マツに対し枝倒れや根への負担など悪影響を及ぼすことが懸念されたため、市は現在の交流館横（現三保松原町 39-7）に観光バス駐車場を新設した。平成 26 年（2014 年）4 月 29 日から神の道へのバス進入の抑制を開始、10 月には現在のみほしるべ前広場にあったバス駐車場を閉鎖した。観光バス客の徒歩移動距離が長くなり、立ち寄り時の所要時間が増加することから、当初は観光業者からの反発も多かったが、徐々にマツの保全への理解が進んだ。また、平成 31 年（2019 年）に三保松原町 7-11 付近に徒歩移動距離短縮のためのバス乗降場を新設した。マツのための神の道進入の抑制と、神の道を歩行して楽しむことを、継続して促している。